THE ENVIRONMENT & AGRICULTURE NEWS

# 環境農業新聞

メール：ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp

2022年（令和４年）
９月15日（木）
第247号

毎月15日発行
平成13年4月17日
第三種郵便物認可

発行所　環境農業新聞社
編集発行人　成瀬一夫
東京都葛飾区東金町1-41-9
〒125-0041　フランス堂ビル３階
電話　03-3826-5212
FAX　03-3826-5217
年間購読料　3,000円（税・送料込）
郵便振替口座　00150-2-290578

主な記事

○…緊急提言　新たなパンデミック…（1面）
○…農水省の概算要求……（3面）
○…殺人ワクチン、直ちに中止…（4、5面）
○…ＥＳＩ、２つの展示会に・（8面）

# 今年11月、12月に新たなパンデミックが起こりそう

## ホメオパシーと自然農が救う

### 緊急提言：由井寅子 日本ホメオパシー医学協会名誉会長

## 免疫グレイトを考案

### 人工ウイルスは強力

■2022年11月から新たなパンデミックが生じる。

2022年11～12月頃に新たな生物兵器がばらまかれ、新たなパンデミックが起こりそうです。

このパンデミックに以下の5つのウイルスの遺伝子をミックスした人工ウイルスが登場する予定です。

①新型コロナ…30%
②サル痘…30%
③マールブルグ熱…20%
④天然痘…10%
⑤HIV…10%

こんなものは自然界に存在するわけもなく、最初、WHOでは「新型コロナとサル痘の感染症が広がり、人の中でその2つのウイルスが合体した世界的な死亡率は、10%とかなり高くなりそうですが、日本の死亡率は1%となりそうです。

この死亡率の高さは驚異的ですが、強力な生物兵器という側面もありますが、それだけ新型コロナワクチンによって免疫が低下させられたことの結果とも言えます。

**ワクチン被害を隠蔽**

つまり新たに生じるパンデミックは、ワクチン被害を隠蔽する目的もあると考えられます。

各国の対応の違いによって、感染率、死亡率に違いがあり、ロックダウンし、管理を徹底的にやった国は死者が少なかったという物語を作ろうとする可能性があります。

そのために、各国の対応の違いによって、人工ウイルスのばらまく量を変えるのではないか？そうして、彼らの目的である、超管理社会、共産主義社会へ移行しようとするのではないかと思われます。

■各ウイルスの霊的見解

①新型コロナの霊的見解

一番最初の新型コロナは、「勝って人を見下したい」という意識が生物化したものであり、同じ意識をもっている人に感染するものでした。

その後変異株が出て、その都度、コロナの意識が変化していきました。感染症とは自然が為す同種療法で、低い意識を浄化する働きがあります。

一方、感染症を薬で抑圧することで、逆にその意識が埋め込まれる（本能化する）リスクもあります。

**ホメオパシーで治療**

感染症にはホメオパシーで治療することが最良と思います。

②サル痘の霊的見解

サル痘は次の二つの低い意識を浄化する働きがあります。

（1）恐れ…74%、拒絶…26%の感情で、どういう状況で生じる感情かというと、大事な人、大切な人、日頃守ってくれる人と引き離されるような状況で生じる感情です。大切な人が殺されるとか、どこかに連れて行かれるとか、目の前からいなくなっちゃうとかそういう経験をして、未解決な感情、思いがサル痘にかかることで癒えていきます。

（2）人から軽んじられる、冷たくされる、相手にしてもらえない、駄目な奴扱いされる、などの意識。そういう低い意識をもっているとサル痘にかかってその意識が癒されます。

③マールブルグ熱の霊的見解

一言で言うと、怠け者の駆除。こつこつ続けることが苦手。地道な努力はアホらしい。楽して生きて行きたいなー、という人が感染しやすい。人口削減には打って付けですね。

もちろん、マールブルグ熱に感染して、それを乗り越えることができれば、このような低い意識が浄化されるわけですが、このような意識が強い人は、乗り越えることができないでしょう。

ホメオパシーを使えば乗り越えることはできます。

④天然痘の霊的見解

天然痘にかかりやすい人は、次のような人で、天然痘にかかることで浄化されます。

（1）怒りが強い人。どういうときに生じる怒りかというと、人から見下された（みくだされた）とき。

（2）他者から攻撃され酷い目に合わされると、すぐにネガティブに考えやすい被害妄想の強い人。

（3）努力したり頑張ることを嫌う人。

⑤HIV（エイズ）の霊的見解

白血球が成長せずに数が減少する白血病（HIV、エイズ）のような病気の原因として、霊性の不一致＋自分を傷付けた（粗末にした）カルマで起こるようです。

**インチャの一部**

■人工ウイルス感染症に対する予防策

（サポート免疫グレイトの霊的見解）

この強力な人工ウイルス感染症の予防策として、私が考案したのが、サポート免疫グレイトです。

人工ウイルスが強力なだけに、それを予防するためのサポート免疫グレイトも強力にならざるを得ませんでした。

ですから、サポート免疫グレイトをとると好転反応として心身に症状が出てきます。

サポート免疫グレイトをとると、自分は他者から大事にされない、自分は他者から粗末にされる、という意識が出てきます。

この意識は、愛されたいインチャの一部です。愛されることを求めるのは、自分が愛される価値がないと思っているからです。

愛される価値がないから、愛されることを求めるのです。

（2面につづく）

由井名誉会長

コロナウイルス第7波は終息に向かっているようだが、感染症の専門家は第8波がインフルエンザと同時に起きるのではないかと危惧する声をあげている。いつになったらマスク姿が無くなるのだろうか。冷静になって今のマスコミの報道、専門家の先生の言うことを信じられないという声も多く聞かれ、ワクチンを打って血栓ができ、脳梗塞、心筋梗塞で緊急入院しうした状況を打破するために非常に強い口調で訴える人物がいる。その方は、日本に初めて「ホメオパシー療法」を持ち込み、医療業界やマスコミによって叩かれた経験を持つ由井寅子氏だ。現在、日本ホメオパシー医学協会の名誉会長を務める傍ら食の大切さを説き、耕作放棄地の再生、自然農を自ら実践、6次産業化を進めている。由井寅子氏の話を紹介する。

## 10月15、16日に開催

### JPHMAコングレス

10月15～16日JPHMAコングレス（ホメオパシー大会）が開催される。

今年のテーマは、ワクチン信奉の崩壊、未曽有の時代をホメオパシーと自然農が救う！

ワクチン信奉の崩壊と、現代農業の問題、食糧危機などについても触れる予定。

来賓発表では、1日目には、書籍「予防接種は果たして有効か」の英国ホメオパスで生化学者のトレバー・ガン氏に「免疫系、現在のパンデミックに対するホリスティック病理（新型コロナ、サル痘、マールブルグ熱、等）＊英国の状況を含む」をテーマに講演。さらに子どもへのコロナワクチン接種の即時中止を求める関西医師の会代表発起人でサル痘の予防接種として世界的に接種推奨の動きのある天然痘ワクチンの安全性へ警鐘を鳴らしている井上正康大阪市大医学名誉教授にも新型コロナやワクチンの全貌について講演予定。

また、JPHMAコングレスプレイベントとして、9月23日（祝）に由井寅子のお彼岸講演。10時～10時40分は、菅義偉・岸田文雄・河野太郎氏など、コロナワクチン接種を推進した11名を殺人罪、殺人未遂罪などで刑事告発した南出喜久治弁護士が登壇。ワクチン信奉の完全崩壊の口火を切ってもらう予定。

南出喜久治弁護士は、JPHMAコングレスでも発表いただきます。参加費無料

▼9月23日　祝　お彼岸講演ライブ
https://www.homoeopathy.ac/event/37686/

▼10月15日、16日
JPHMA　コングレス
https://jphma.org/congress/